

Ⅱ 委員会活動から Ⅱ

業務企画委員会(日本技術士会北海道支部)

講演会報告

● はじめに

業務委員会の活動として年 2 回、講演会を企画しておりますが、去る 10 月 23 日に国土交通省北海道開発局の吉田義一建設部長にご依頼し、2003 年度第 1 回目の講演会を開催しましたので、その概要を報告致します。

講演会の演題は『2003 年台風 10 号豪雨と十勝沖地震の概要と課題』です。2003 年 8 月、9 月と連続的に北海道に発生した大災害について、災害規模の実態報告と国道復旧など応急対策に対する素早い行政側の取り組みの報告及び既存防災施設の能力と今後の防災に関する問題点などについての講演でした。

講演に先立って、吉田部長からは“技術士会との意見交換の場を設けられたことと災害に関連して多くの技術士から応援いただいたことに感謝する”というメッセージを頂きました。

● 講演の概要

2003 年 8 月の台風 10 号災害は死者・行方不明者 11 名、被害総額約 800 億円を、9 月の十勝沖地震災害は行方不明者 2 名、被害総額 200 億円をもたらした。北海道開発局としては、これらの災害に関する被害状況と復旧対応状況、8 月豪雨の異常降水量記録と二風谷ダムの貯水効果などについて速報版を作成し、正確な情報を道民へ提供した。

台風 10 号災害では日高地方や十勝地方に記録的な降水量をもたらし、河川氾濫による被害と山腹崩壊

による土砂流出災害が著しかった。直轄河川では 8 水系 18 河川で警戒水位を超過し、4 水系 8 ダムで貯水位が洪水位を超えたため、冠水被害箇所での排水ポンプ車出動やダム洪水調整を行い被災の軽減に努力した。河川・ダム計画では過去の最大降水量をもとに防災規模を決定するが、北海道においては気象観測が開始されたのは 40～50 年前からでありデータが十分蓄積されていないので、今回のような豪雨記録を考慮して、更に安全な防災施設を検討する必要がある。また、土砂流出被害で考えさせられるのは、“緑のダム”といわれる森林は降水量 100 mm を超えると斜面崩壊を生じてしまい、多量の流木を流出して被害を発生させることであり、今後は他の防災施設との組み合わせにより安全な山地づくりが望ましい。

9 月に発生した釧路沖を震源とする震度 5 強～震度 6 弱の十勝沖地震では河川堤防・道路・港湾施設及び橋梁等構造物が破損し、一般家屋の倒壊・ライフラインの被災などをもたらした。地震に対する予防対策としては、全ての構造物や家屋を強化することになるが、現実的には財源の問題があり、今後の問題点である。

今回の一連の災害を通して痛感したことは、正確な情報把握による適切な避難警報や避難勧告の発令の重要性である。今後は地域防災情報の共有化、通報情報収集、監視管理システム等の整備を進め適切な情報管理が出来るよう関係各機関と連携し、情報システムを確立すべく検討中である。

以上ですが、1 時間 40 分程の長時間にわたり、パワーポイントと速報パンフレットを使われて話された内容から、行政側の大変さを知らされ、私たち技術士がお手伝いできる部分が見えたように思います。

(文責：平 信行)



講演する吉田部長